

15-51-144 進行



【コード進行の型 C002】D の代理コードと省略フォーム



目的

『 Happy Birthday to You 』のコード進行の機能分析を通して、A フォームのスリー・コードを覚えると同時に、リハーモナイズに役立つ“代理コード”や省略コードを使った“はったりフレーズ”を身に着けていきます。

POINT

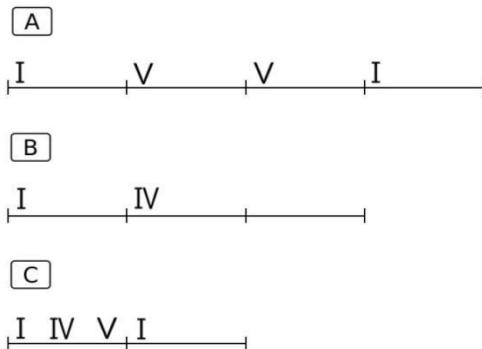
- D の“代理コード”と省略コードを使った“はったりフレーズ”
- A フォームのスリー・コード

ここでは世界一有名な『 Happy Birthday to You 』のコード進行を A フォームのスリー・コードで機能分析していきます。

ギターを抱えていると「何か弾いてよ」と言われてしまうことがよくありますが、『 Happy Birthday to You 』はリクエストされる確率の最も高い曲と言えるでしょう。

この歌にもボブ・ディランの『 Blowin' In The Wind 』の B メロで登場する「風の IV」と「教科書終止」が使われています。そこで使える“代理コード”や省略コードを使った“はったりフレーズ”をついでに覚えておくと、いずれ役に立つ場面があるかもしれません。

Happy Birthday to You



Comment

【キーとコード】

今回の『 Happy Birthday to You 』の機能分析は、歌いやすい A フォームのダイアトニック・コードを使って進めていきます。2 カポの G フォームでも弾けますが、唐突に「Happy Birthday to You を弾いてよ」と言われてしまった時のために、カポタストを使わずに弾ける A フォームで覚えておくといいとおもいます。

【 『 Happy Birthday to You 』の弾き語りで歌いやすいキー

【 Happy Birthday to You 】

Key in A

Play G (Capo2)

Play E (Capo5)

『 Happy Birthday to You 』はスリー・コードで弾くことができます。A フォームのダイアトニック

ク・コードとスリー・コードを確認しておきましょう。

Aのダイアトニック・コードとスリー・コード

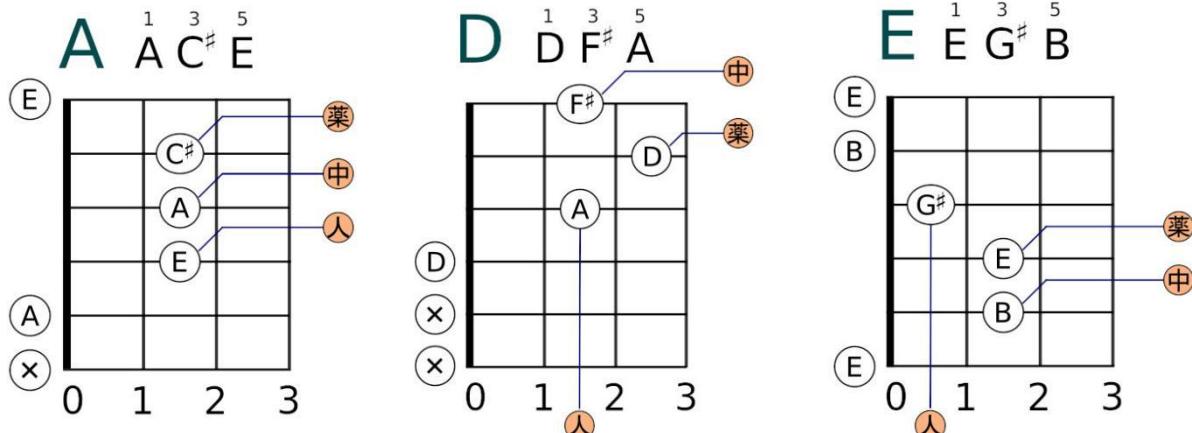
I II_m III_m IV V VI_m VII_{dim}

A B_m C♯_m D E F♯_m G♯_{dim}

Aフォームのスリーコード(主要三和音)

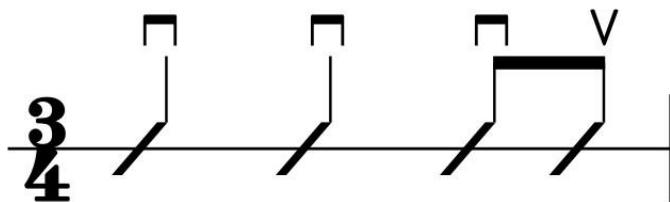
I IV V
A D E

Aフォームの場合、トニックのIはA、サブドミナントのIVはD、ドミナントのVはEです。



ストローク・パターンはこんな感じになります。シャッフルのリズムです。

『Happy Birthday to You』のストローク・パターン(シャッフル・ストローク)



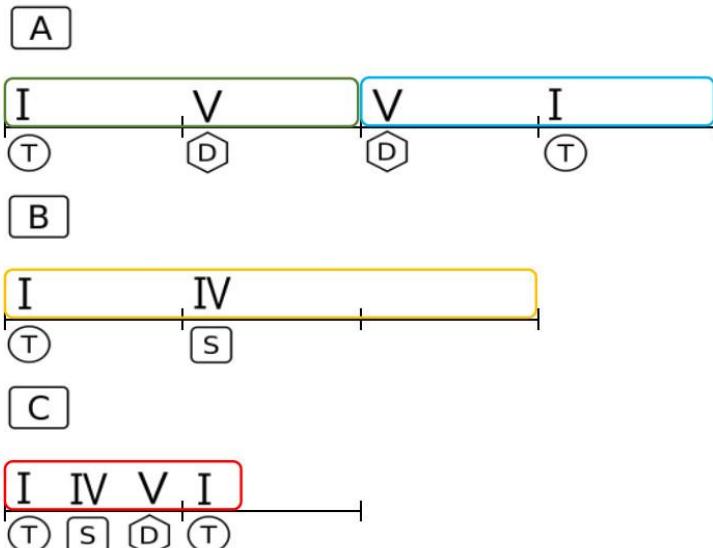
Comment

【コード進行】

『Happy Birthday to You』(1893)のコード進行全体を俯瞰(ふかん)してみましょう。

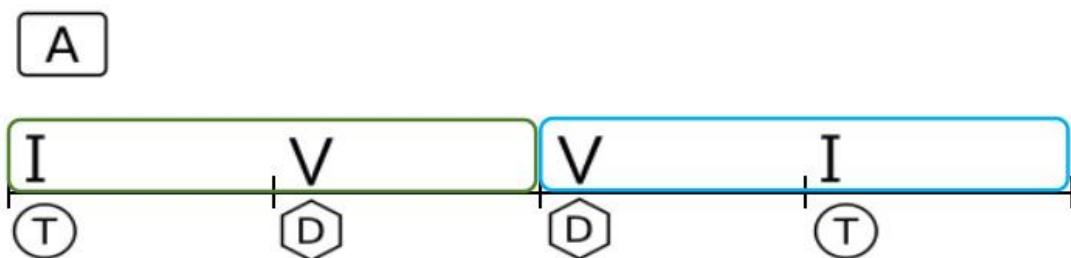
■ Happy Birthday to You の一本線コード譜

Happy Birthday to You



全体を通してトニックのIとサブドミナントのIVとドミナントのVのスリー・コードで構成された楽曲であることがわかります。

■ Aメロ



Aメロの前半2小節ではトニックのIからドミナントのVに進行し、後半2小節でドミナントのVからトニックのIに戻ります。

【1-5進行(トニック→ドミナント)】 【5-1進行(ドミナント→トニック)】



「安定」

「不安定」



「不安定」

「安定」

定番ケーデンスの号令終止(151)のバリエーションとして覚えておくと忘れにくいかかもしれません。

定番【1-5-1進行(仮称:号令終止)】



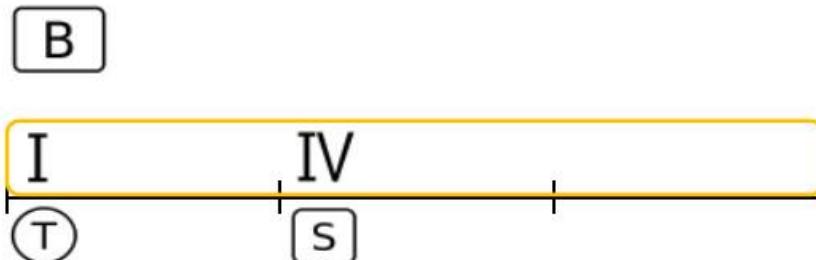
「安定」 「不安定」 「安定」

簡単なイントロをつけてからAメロを弾き始めるとちょっとカッコよく聞こえるでしょう。

$\text{♩} = 95$

The musical score shows a treble clef, a key signature of two sharps, and a time signature of 3/4. It consists of four measures. The first measure has a single note. The second measure contains a G chord (B, D, G). The third measure contains a D/F# chord (D, F#, A) and an Asus4 chord (E, A, C#). The fourth measure contains another G chord (B, D, G) and an A chord (C, E, G). Below the score is a guitar tab with a neck diagram and fingerings (0, 2, 2, 1, 3, 2, 3, 2, 2, 1, 2, 2, 0).

Bメロ



BメロはトニックのIからサブドミナントのIVに進行しますが、トニックには戻らずにサブドミナントのIVを2小節連続で響かせます。こうすると一瞬流れが止まるような印象を生み出すため、「〇〇歳にはなったけれど…」という誕生日という節目の日の独特的な気分を表現できるわけです。

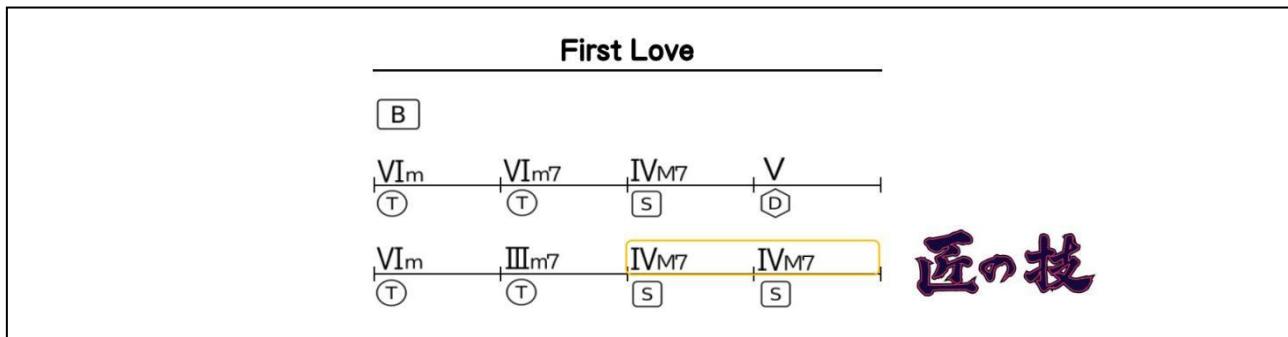
【144進行(風のIV)】



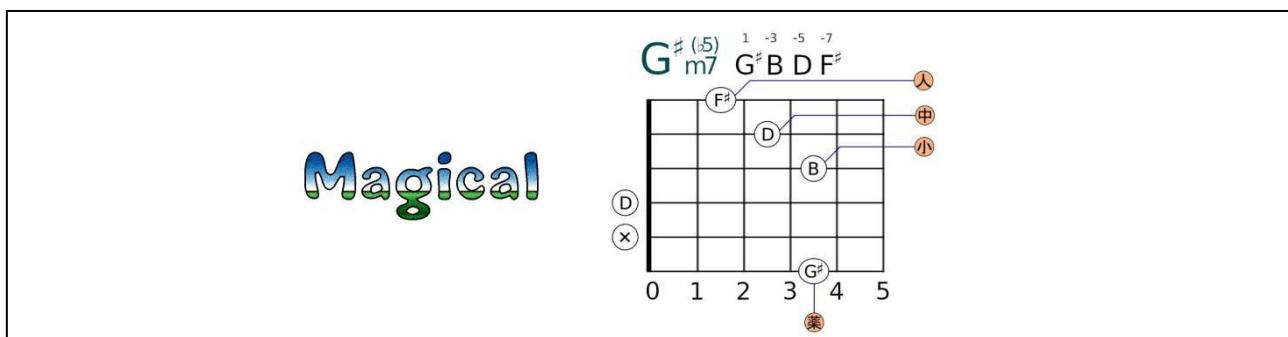
「安定」 「やや不安定」 「やや不安定」

風のIV

このサブドミナントのIVは、ボブ・ディランの『Blowin' In The Wind』にも登場する「風のIV」なのですが、一瞬流れを断ち切って立ち止まるような印象を与えます。それを連続2小節で響かせることで、次の小節をトニックのIで始めたときに新たな物語がはじまる予感を生み出すわけです。

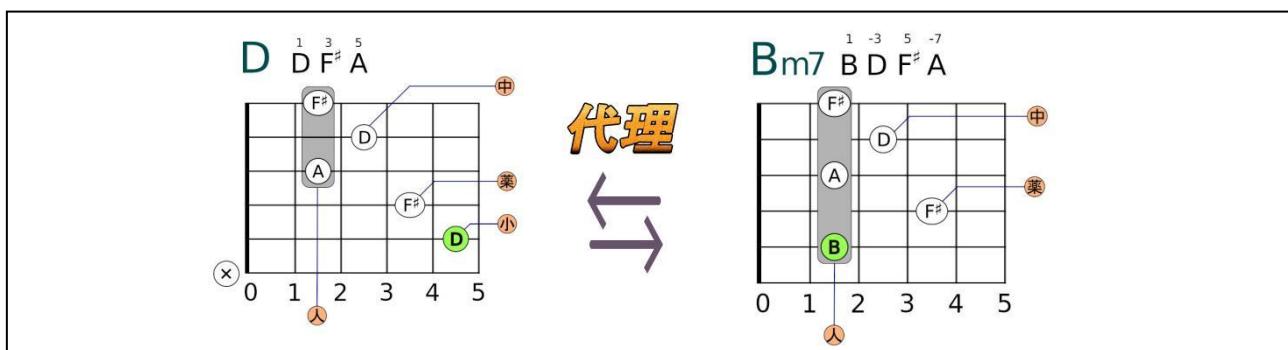


この「風のIV」の連続2小節使いのテクニックは、宇多田ヒカルさんの『First Love』のBメロ終わりからサビにかけての部分で効果的に使われています。サビに入る直前で使ってみたい技です。

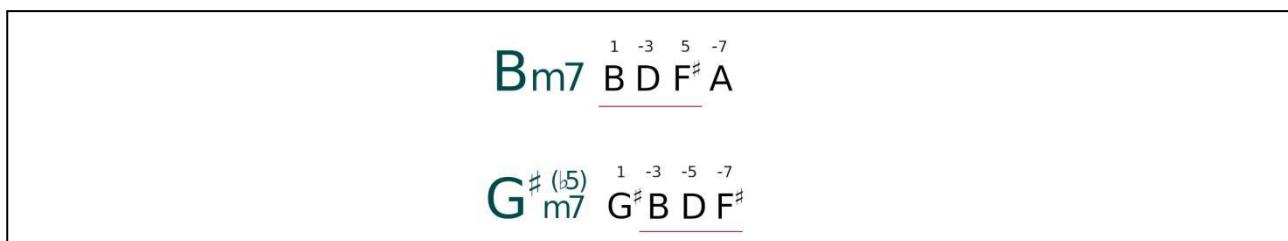


また、この場面で使ってみたい“マジカル・コード”があります。D(AフォームのIV)の代理コードである—G#m7-5(Gシャープ・マイナーセブンス・フラットファイブ)—です。

3度と5度と7度の音がそれぞれ半音下がっていて、名称からして複雑そうな和音ですが、このコードがココで登場する仕組みを理解すれば当たり前に使えるようになるとおもいます。



まず理解しておきたいのは、DのコードとBm7のコードはほぼ同じ構成音で、ダイアグラムで見ると1～4弦のコード・フォームも同じされることです。このように構成音がほぼ同じ和音同士は双方を代理コードとして使えます。



またBm7とG#m7-5で異なる音は一音のみで、残りのB・D・F#を同じくする和音ですから、G#m7-5はBm7を仲立ちとしてDと友達関係にある和音とも言えます。そこでサブドミナントのDのところにBm7の代理コードであるG#m7-5を当てはめてみようという発想が生まれるわけです。

I _{M7}	II _{m7}	III _{m7}	IV _{M7}	V ₇	VI _{m7}	VII _{m7} ^(b5)
A _{M7}	B _{m7}	C _{#m7}	D _{M7}	E ₇	F _{#m7}	G _{#m7} ^(b5)
G_{#m7}^(b5)	G_{#B D F_#}		D		D	
			「不安定」		「不安定」	
E₇⁽⁹⁾	E G_{#B D} + F_#					

G#m7-5はAフォームのダイアトニック・コードのVII_{m7}-5で、機能としてはドミナントに相当します。V7のE7を基準に考えるとE7(9)となり、基盤となるルート音のEを切り捨てた響きになりますから、ドミナントのE7の代理コードなのか、サブドミナントのDの代理コードなのか判別がつかなくなるわけです。このどっちつかずの浮遊感がAフォームでG#m7-5を使う時の魅力となります。

$\text{♩} = 140$

The musical score consists of six measures. Measure 1: Chord D/A (G, B, D, A). Measure 2: Chord G#m7(b5) (G, B, D, E, F#, A). Measure 3: Chord G (G, B, D, E). Measure 4: Chord D/F# (D, F#, A, C). Measure 5: Chord Em (E, G, B, D). Measure 6: Chord A (A, C, E, G). Below the score are six guitar chord diagrams corresponding to the chords in each measure. A bass line is also provided with tablature below the strings.

G#m7-5はザンオールスターズの『いとしのエリー』のイントロでも使われています。このようなDのコードが連続する場面で、流れに変化をもたらす効果が期待できる使い勝手のよい和音です。

| Cメロ

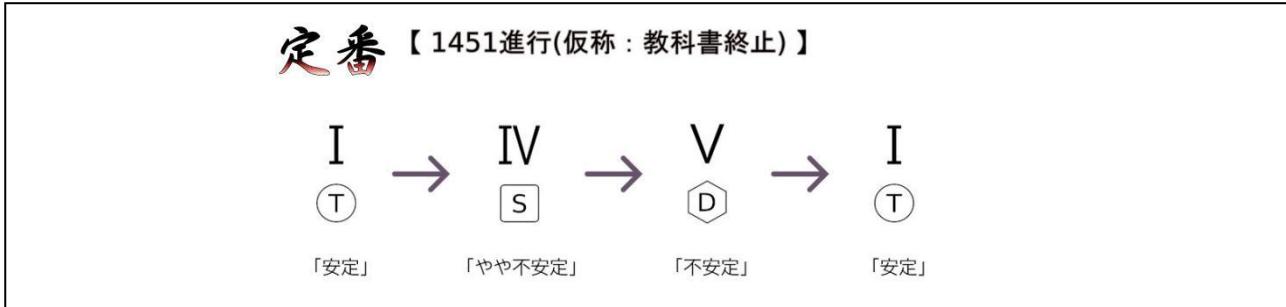
C

I IV V I

T S D T

The diagram shows a sequence of four chords: I (T), IV (S), V (D), and I (T). The first three chords are highlighted with a red box. A horizontal line connects the first three chords, indicating a continuous progression.

Cメロは“教科書的な終止形”とも言える定番ケーデンスの1451進行です。



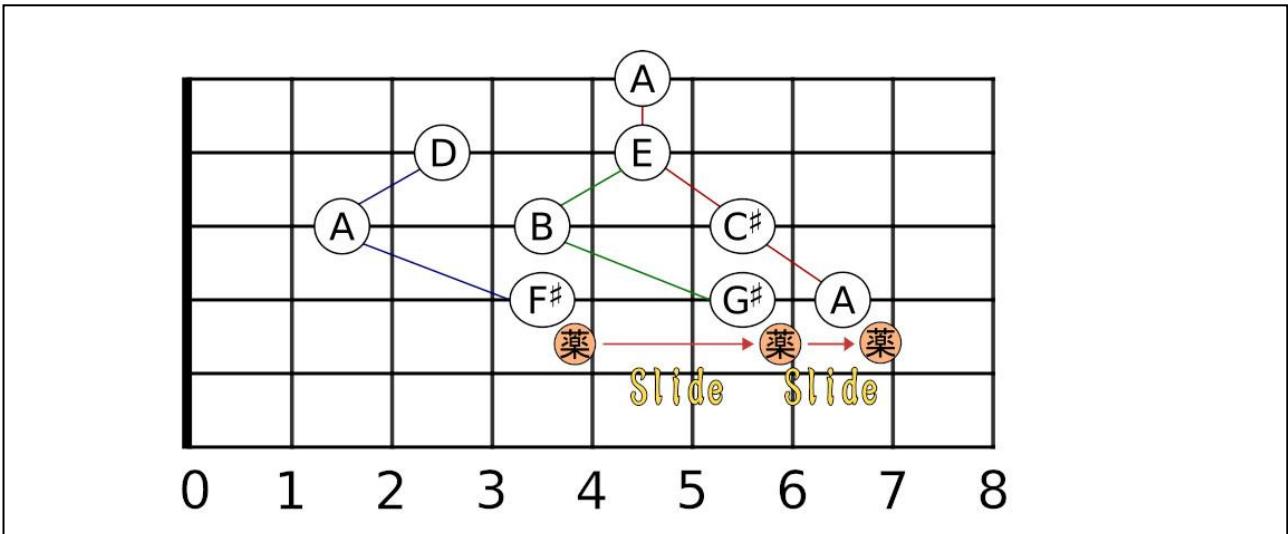
Aフォームの1451進行で使える定番の“はったりフレーズ”を覚えておくと応用が利きます。

J = 95

これはロー・コードのA型Aの省略フォームとミドルポジションのE型Aの省略フォームの間を、DとEの三和音の省略コードでつなぐフレーズになっています。

DとEのコードはC型DとC型Eの省略フォームです。

D-E-Aと続くコード・チェンジのところは、薬指を4弦に固定したまま滑らせていく(ガイド・フィンガー)と簡単になります。



ここで登場した省略フォームは、どれもよく使うものですから、各コードの構成音と度数を同時に覚えておくといいとおもいます。

A $\begin{smallmatrix} 1 & 3 & 5 \\ A & C^\sharp & E \end{smallmatrix}$ <p>0 1 2 3 4 5 6 7 8</p>	D $\begin{smallmatrix} 1 & 3 & 5 \\ D & F^\sharp & A \end{smallmatrix}$ <p>0 1 2 3 4 5 6 7 8</p>	E $\begin{smallmatrix} 1 & 3 & 5 \\ E & G^\sharp & B \end{smallmatrix}$ <p>0 1 2 3 4 5 6 7 8</p>
A $\begin{smallmatrix} 1 & 3 & 5 \\ A & C^\sharp & E \end{smallmatrix}$ <p>0 1 2 3 4 5 6 7 8</p>	D $\begin{smallmatrix} 1 & 3 & 5 \\ D & F^\sharp & A \end{smallmatrix}$ <p>0 1 2 3 4 5 6 7 8</p>	E $\begin{smallmatrix} 1 & 3 & 5 \\ E & G^\sharp & B \end{smallmatrix}$ <p>0 1 2 3 4 5 6 7 8</p>